宮崎県立看護大学
令和 7 年 6 月 1 9 日

宮崎県立看護大学情報システム基幹ネットワーク機器の更新等業務仕様書

1. 目的

本仕様書は、宮崎県立看護大学（以下「甲」という。）の基幹ネットワーク機器の更新等について、必要な仕様を定める。

2. 調達の概要

（1）調達範囲について

本調達の範囲は、以下のとおりであり、機器の借入、搬入据付、調整、検査、保守及び甲に対する諸手続を含むものとする。

本仕様に明示のない事項であっても、機能上及び社会通念上当然必要と思われるものについては、請負者（以下「乙」という。）において充足するものとする。

1. 構築及び設置作業
2. 機器賃貸借（運用保守も含む）

（2）賃貸借及び保守期間

1. 構築及び設置作業
 - ✓ 契約期間 : 契約日～令和 7 年 1 0 月 3 1 日とする。
2. 機器賃貸借（運用保守も含む）
 - ✓ 契約期間 : 令和 7 年 1 1 月 1 日～令和 1 2 年 1 0 月 3 1 日の 5 年間とする。

（3）成果物について

成果物として、以下を提出すること。

1. 作業実施計画書
2. 総合試験計画書
3. 機器構成図（機器構成表、IP アドレス表、ネットワーク構成図、学内 LAN 敷設詳細図）
4. 機器設定情報（Config やパラメータ等）
5. 動作確認報告
6. 保守体制図
7. 作業報告書
8. 障害対応報告

9. 機器操作マニュアル

3. 調達要件

(1) 基本的事項

- ✓ 本学のネットワーク設備は令和 2 年のネットワーク更新時に一部見直しを行っているが、機器の老朽化等により、通信速度や処理能力が業務要求を満たせなくなるため、新しい機器への更新が必要になっている。
- ✓ 本学では業務システムのクラウドサービスの利用を推進していることから、クラウドサービス利用におけるセキュリティ対策およびトラフィックの増大について十分考慮した設計とすること。
- ✓ 無線アクセスポイント機器、ファイアウォール機器やその他機器の更新を実施すること。使用する機材や対応場所等については、(2) 以降の要件を満たすこと。
- ✓ 現行のネットワーク環境の把握に当たっては、以下資料を参照することとし、別添 3 の機器で“更改”となっているものについて、同等以上の製品や機能を提案すること。
 - ・ 別添 1. 校舎等建物配置図
 - ・ 別添 2. 現行平面配線図
 - ・ 別添 3. 現行ネットワーク機器一覧
 - ・ 別添 4. 無線ネットワークの詳細
- ✓ 学内の光ファイバーケーブルは更新しない。
- ✓ 学内のネットワーク接続は現行の構成から変更しないこと。
- ✓ 学内のネットワークの論理的な構成について、現行と同様にファイアウォールで区分すること（現在のポート：WAN、DMZ、LAN、GUEST、教務、財務、電子錠）。なお、ゲストユーザーは認証キーでのインターネットアクセスのみとし、学内リソースにアクセスできないようにすること。
- ✓ 機器設置は既存機器からの接続切り替え作業も含むこと。機材どうしの接続にケーブル類やアタッチメントが必要となる場合は、それも合わせて調達すること。また、乙へ CONFIG（テキストまたはバイナリの config ファイル形式）を提供するため、各機器に必要な再設定を実施すること。

(2) 機器等に関する要件

- ✓ (3) の要件を満たすために無線アクセスポイントを増台する場合、必要に応じてスイッチ機器を増台すること。
- ✓ 今回更改する機器は現行機器と同等以上の機能を有する機器を調達することとし、EIA 基準準拠 19 インチラックマウント型とすること。
- ✓ 同一の種類（用途）の機器に関しては、機種及び型番・スペックを全て統一すること。
- ✓ 原則として、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和 7 年 1 月 28 日変更閣議決定）」に規定された基準及び配慮事項を満たす機器であること。

(3) 無線ネットワークに関する要件

- ✓ 学内の無線ネットワーク環境について、施設ごとに想定する端末数が同時に接続できるようにするために、現行機器の新機器への入替を実施する。具体的な施設やアクセス数は、「別添 4. 無線ネットワークの詳細」に記載のとおりとする。設置にあたっては、往来による影響を受けない場所に取り付け、空きポートなどに容易にアクセスができないようにすること。

(3)-1.無線アクセスポイント A 7台

- ✓ 設置するアクセスポイントは、次の機能を有すること。
 - ・ 無線によるネットワーク接続には次の 2 系統を準備し、同一アクセスポイントでの認証方法によって切り分けられること。
 - ・ インターネット：SSID とパスワード認証で接続できること。
 - ・ 学内ネットワーク：MAC アドレスを登録した端末がユーザーID/パスワードによる認証で接続できること。
 - ・ 10/100/1000BASE-T インターフェースを 1 ポート以上有していること。
 - ・ パワーインジェクターだけでなく、LAN ケーブルからの給電（IEEE802.3af/802.3atPoE）で動作が可能であること。
 - ・ 既存の漏洩同軸ケーブル（アンテナ）と接続できる端子を有すること。
 - ・ IEEE802.11a/b/g/n/ac/ax に対応していること。
 - ・ 単体での稼動に加え、コントローラーによる集中管理による動作モードに対応していること。また、動作モードの切り替えはファームウェアの入れ替えなしで行えること。
 - ・ IEEE802.1x 認証及び MAC アドレス認証をサポートしていること。
 - ・ SNMPv1/v2c/v3 をサポートしていること。
 - ・ AP 内蔵コントローラで管理できる AP の数が 100 台以上であること。
 - ・ 設定の Web UI は日本語に対応していること。
 - ・ 無線フレームをキャプチャする機能を有すること。
 - ・ 既存の LAN 配線（Cat6A）をそのまま利用するか、または新規配線工事を実施すること。

(3)-2.無線アクセスポイント B 88台

- ✓ 設置するアクセスポイントは、次の機能を有すること。
 - ・ 無線によるネットワーク接続には次の 2 系統を準備し、同一アクセスポイントでの認証方法によって切り分けられること。
 - ・ インターネット：SSID とパスワード認証で接続できること。
 - ・ 学内ネットワーク：MAC アドレスを登録した端末がユーザーID/パスワードによる認証で接続できること。
 - ・ 10/100/1000BASE-T インターフェースを 1 ポート以上有していること。
 - ・ パワーインジェクターだけでなく、LAN ケーブルからの給電（IEEE802.3af/802.3atPoE）で動作が可能であること。

- ・ アンテナが本体と一体または、アンテナの費用も含むこと。
- ・ IEEE802.11a/b/g/n/ac/ax に対応していること。
- ・ 単体での稼働に加え、コントローラーによる集中管理による動作モードに対応していること。また、動作モードの切り替えはファームウェアの入れ替えなしで行えること。
- ・ IEEE802.1x 認証及び MAC アドレス認証をサポートしていること。
- ・ SNMPv1/v2c/v3 をサポートしていること。
- ・ AP 内蔵コントローラで管理できる AP の数が 100 台以上であること。
- ・ 設定の Web UI は日本語に対応していること。
- ・ 無線フレームをキャプチャする機能を有すること。
- ・ 既存の LAN 配線 (Cat6A) をそのまま利用するか、または新規配線工事を実施すること。

(4) 認証サーバに関する要件

- ✓ 認証サーバ機器：1 台
 - ✓ 設置する認証サーバは、次の機能を有すること。
 - ・ ソフトウェアとハードウェアが一体化したアプライアンス機であること。
 - ・ 管理画面は Web ブラウザかつ日本語で表示できる機能を有すること。
 - ・ 設定情報を USB メモリや外部のサーバに自動的にバックアップする機能を有すること。
 - ・ システムログを管理画面で確認できる機能を有すること。また、外部 Syslog サーバへ送信できる機能を有すること。
 - ・ コンソールもしくは SSH による接続機能を有すること。
 - ・ 認証プロトコルとして、以下に対応していること。
- (ア) PAP
- (イ) CHAP
- (ウ) MSCHAPv1
- (エ) MSCHAPv2
- (オ) EAP-TLS
- (カ) PEAP(EAP-MSCHAPv2/EAP-TLS)
- (キ) EAP-TTLS(PAP/CHAP/MSCHAPv2/EAP-MSCHAPv2/EAP-TLS)
- (ク) EAP-MD5
- (ケ) EAP-MSCHAPv2
- ・ ライセンス数に関わらず RADIUS クライアントを最大 10,000 台登録できる機能を有すること。
 - ・ 最大 200,000 アカウントを登録可能であること。
 - ・ 複数のアカウント情報を一括で登録／変更できる機能を有すること。複数のディレクトリに対し、アカウント情報を一括で登録／変更、削除できる機能を有すること。
 - ・ ディレクトリ単位で管理者を設定できる機能を有すること。ディレクトリ管理者は、自身のディレクトリのみ管理者権限を持つこと。
 - ・ 最終認証日から一定期間認証していないアカウントの認証要求を拒否する機能を有すること。
 - ・ アカウントの無効化から一定期間認証していないアカウントや、有効期限が切れたアカウントを削除す

る機能を有すること。

- ・ 最終更新日から指定日数経過したアカウントを削除する機能を有すること
- ・ 認証時に未登録の端末の MAC アドレスを収集する機能を有すること
- ・ 利用者によるユーザ、端末、証明書アカウントを登録、編集、削除申請する Web インタフェースを有すること。利用者が申請した内容を管理者に通知し、管理者が承認する機能を有すること。
- ・ 既存機器からの設定データ移行についてはバックアップファイルをコンバージョン実施してデータ移行が可能であること。

(5) 基幹スイッチの要件

- ✓ 基幹スイッチについては、次の条件を満たすこと。本館2台と教育研究棟2台に、それぞれレイヤー3 での通信を可能とする基幹スイッチを冗長構成にて配置すること。
 - ・ 10/100/1000BASE-Tポートを24ポート以上有していること。
 - ・ 1G/10G/25G/50G対応のSFP56ポートを4ポート以上有していること。
 - ・ 管理用イーサネットポートを1ポート以上有していること。
 - ・ USB-Cのコンソールポートを有していること。
 - ・ 448Gbps以上のスイッチング容量を有すること。
 - ・ 334Mpps以上のパケット転送能力を有すること。
 - ・ MAC アドレスを32,000 個以上、認識可能であること。
 - ・ メインメモリ8GB以上、フラッシュメモリ32GB以上を有していること。
 - ・ 物理ポートごとにICMPトラフィックを抑制する機能を有すること。また、ICMPはIPv4, IPv6, IPv4/v6全てのいずれかを指定できること。
 - ・ サポート可能なルーティングテーブル数はIPv4が61,000、IPv6は61,000以上であること。
 - ・ ブロードキャスト、マルチキャスト、リンクフラップ、CRCエラー等の閾値を設定し、超えた場合に通知または、通知とポートのシャットダウンができる機能を有すること。
 - ・ ループ検知能力をもち、ネットワークへの影響を抑える機能を有すること。またループ検知時は検知のみ、ループ検知パケットを送信したポートのみ無効、送信ポート及び受信ポートの両方を無効にするアクションが選択できること。
 - ・ IEEE802.1X認証機能を有すること。
 - ・ MACアドレスベースの認証機能を有すること。
 - ・ SNMP v1/v2/v3 に対応していること。
 - ・ MAC アドレステーブルをクリアする機能も併せて有すること。
 - ・ 認証有効化ポートにおいて、Wake-on-LANのマジックパケット等を透過させることが可能なこと。
 - ・ 接続済み端末に対しての動的なアクションを行うため、RADIUS CoA (Change of Authorization)をサポートすること。
 - ・ CLIで現在操作している階層のみのコンフィグを表示可能なこと。
 - ・ スイッチ単体でのパケットキャプチャ機能を有すること。
 - ・ コンフィグを自動的にチェックポイントとして保存し、装置の再起動なしでコンフィグのロールバックができること。

- ・ Web GUIを有すること。
- ・ 電源はモジュール式で、内蔵電源冗長化が可能であること。
- ・ ファンはモジュール式で2個以上搭載可能で、故障時にはホットスワップで交換が可能なこと・スイッチ単体でサポートするL3/L2機能はライセンス等の追加を必要とすることなく利用可能なこと
- ・ 動作保証温度は0-45℃をサポートすること。

(6) ローカルスイッチの要件

- ✓ 基幹ネットワークに接続するローカルなスイッチ（またはスイッチングハブ）については、次の条件を満たすこと。

(6)-1.スイッチングハブ A

- ・ 10/100/1000BASE-T ポートを 24 ポート以上有している機器を 1 台設置すること。
- ・ 24 ポート以上を有するスイッチはスイッチング容量 56Gbps、パケット処理能力 41.6Mpps 以上であること。
- ・ MAC アドレスを 8000 個以上、認識可能であること。
- ・ 物理ポートごとに ICMP トラフィックを抑制する機能を有すること。また、ICMP は IPv4, IPv6, IPv4/v6 全てのいずれかを指定できること。
- ・ ブロードキャスト、マルチキャスト、リンクフラップ、CRC エラー等の閾値を設定し、超えた場合に通知または、通知とポートのシャットダウンができる機能を有すること。
- ・ ループ検出パケットを使用したループ検知機能を有し、ループによるネットワークへの影響を抑えることができること。またループ検知時は検知のみ、ループ検知パケットを送信したポートのみ無効、送信ポート及び受信ポートの両方を無効にするアクションが選択できること
- ・ 認証有効化ポートにおいて、Wake-on-LAN のマジックパケット等を透過させることが可能なこと。
- ・ 接続済み端末に対しての動的なアクションを行うため、RADIUS CoA (Change of Authorization)をサポートすること。
- ・ CLI で現在操作している階層のみのコンフィグを表示可能なこと。
- ・ コンフィグを自動的にチェックポイントとして保存し、装置の再起動なしでコンフィグのロールバックができること。
- ・ Web GUI を有すること。
- ・ 動作保証温度は 0-45℃をサポートすること。
- ・ ポート数については、別紙（施設とポート数）を参照し、ある程度の余裕を持たせること。

(6)-2.スイッチングハブ B

- ・ 10/100/1000BASE-T ポートを 48 ポート以上有している機器を 7 台設置すること。
- ・ 48 ポート以上を有するスイッチはスイッチング容量 104Gbps、パケット処理能力 77.3Mpps 以上であること。
- ・ MAC アドレスを 8000 個以上、認識可能であること。
- ・ 物理ポートごとに ICMP トラフィックを抑制する機能を有すること。また、ICMP は IPv4, IPv6, IPv4/v6 全てのいずれかを指定できること。

- ・ ブロードキャスト、マルチキャスト、リンクフラップ、CRC エラー等の閾値を設定し、超えた場合に通知または、通知とポートのシャットダウンができる機能を有すること。
- ・ ループ検出パケットを使用したループ検知機能を有し、ループによるネットワークへの影響を抑えることができること。またループ検知時は検知のみ、ループ検知パケットを送信したポートのみ無効、送信ポート及び受信ポートの両方を無効にするアクションが選択できること。
- ・ 認証有効化ポートにおいて、Wake-on-LAN のマジックパケット等を透過させることが可能なこと。
- ・ 接続済み端末に対しての動的なアクションを行うため、RADIUS CoA (Change of Authorization)をサポートすること。
- ・ CLI で現在操作している階層のみのコンフィグを表示可能なこと。
- ・ コンフィグを自動的にチェックポイントとして保存し、装置の再起動なしでコンフィグのロールバックができること。
- ・ Web GUI を有すること。
- ・ 動作保証温度は 0-45℃をサポートすること。
- ・ ポート数については、別紙（施設とポート数）を参照し、ある程度の余裕を持たせること。

(6)-3.スイッチングハブ C

- ・ 10/100/1000BASE-T PoE+ポートを 24 ポート以上有している機器を 5 台設置すること。
- ・ 24 ポート以上を有するスイッチはスイッチング容量 56Gbps、パケット処理能力 41.6Mpps 以上であること。
- ・ PoE+ポートを有する機器はすべてポートあたり最大 30W、筐体あたり最大 370W の PoE 電力供給が可能なこと。
- ・ MAC アドレスを 8000 個以上、認識可能であること。
- ・ 物理ポートごとに ICMP トラフィックを抑制する機能を有すること。また、ICMP は IPv4, IPv6, IPv4/v6 全てのいずれかを指定できること。
- ・ ブロードキャスト、マルチキャスト、リンクフラップ、CRC エラー等の閾値を設定し、超えた場合に通知または、通知とポートのシャットダウンができる機能を有すること。
- ・ ループ検出パケットを使用したループ検知機能を有し、ループによるネットワークへの影響を抑えることができること。またループ検知時は検知のみ、ループ検知パケットを送信したポートのみ無効、送信ポート及び受信ポートの両方を無効にするアクションが選択できること。
- ・ 認証有効化ポートにおいて、Wake-on-LAN のマジックパケット等を透過させることが可能なこと。
- ・ 接続済み端末に対しての動的なアクションを行うため、RADIUS CoA (Change of Authorization)をサポートすること。
- ・ CLI で現在操作している階層のみのコンフィグを表示可能なこと。
- ・ コンフィグを自動的にチェックポイントとして保存し、装置の再起動なしでコンフィグのロールバックができること。
- ・ Web GUI を有すること。
- ・ 動作保証温度は 0-45℃をサポートすること。
- ・ ポート数については、別紙（施設とポート数）を参照し、ある程度の余裕を持たせること。

(6)-3.スイッチングハブ D

- ・ 10/100/1000BASE-T PoE+ポートを 48 ポート以上有している機器を 6 台設置すること。
- ・ 48 ポート以上を有するスイッチはスイッチング容量 104Gbps、パケット処理能力 77.3Mpps 以上であること。
- ・ PoE+ポートを有する機器はすべてポートあたり最大 30W、筐体あたり最大 370W の PoE 電力供給が可能なこと。
- ・ MAC アドレスを 8000 個以上、認識可能であること。
- ・ 物理ポートごとに ICMP トラフィックを抑制する機能を有すること。また、ICMP は IPv4, IPv6, IPv4/v6 全てのいずれかを指定できること。
- ・ ブロードキャスト、マルチキャスト、リンクフラップ、CRC エラー等の閾値を設定し、超えた場合に通知または、通知とポートのシャットダウンができる機能を有すること。
- ・ ループ検出パケットを使用したループ検知機能を有し、ループによるネットワークへの影響を抑えることができること。またループ検知時は検知のみ、ループ検知パケットを送信したポートのみ無効、送信ポート及び受信ポートの両方を無効にするアクションが選択できること。
- ・ 認証有効化ポートにおいて、Wake-on-LAN のマジックパケット等を透過させることが可能なこと。
- ・ 接続済み端末に対しての動的なアクションを行うため、RADIUS CoA (Change of Authorization)をサポートすること。
- ・ CLI で現在操作している階層のみのコンフィグを表示可能なこと。
- ・ コンフィグを自動的にチェックポイントとして保存し、装置の再起動なしでコンフィグのロールバックができること。
- ・ Web GUI を有すること。
- ・ 動作保証温度は 0-45℃をサポートすること。
- ・ ポート数については、別紙（施設とポート数）を参照し、ある程度の余裕を持たせること。

(7) ファイアウォールに関する要件

- ✓ ファイアウォール機器：1台
- ✓ ファイアウォール機器については、次の条件を満たすこと。本学が指定するデータセンターに設置すること。
 - ・ ハードウェアとソフトウェアが一体となった統合ネットワークセキュリティアプライアンスであること。
 - ・ ファイアウォール装置は、専用のASICを搭載し、CPUの負荷を軽減して高速処理を実現できるアーキテクチャであること。
 - ・ 専用の管理インターフェースを有していること。
 - ・ 10/100/1000BASE-Tのポートを18ポート以上有していること。
 - ・ 10ギガビットSFP+ポートを4ポート以上有していること。
 - ・ ギガビットSFPポートを8ポート以上有していること。
 - ・ 19インチ幅のラック搭載型として1RU以内に収納可能であること。
 - ・ NGFW(ファイアウォール、IPS、アプリケーション制御有効時) スループットは、混合テストかつログを有効にした状態で3.5Gbps以上であること。

- ・ ファイアウォールスループット（パケット/秒）が、16.5M pps以上であること
- ・ 同時セッションは、TCPで最大3,000,000以上であること
- ・ 新規セッションは、TCPで毎秒最大280,000であること
- ・ GUIは一般的なWebブラウザを利用したものであること
- ・ ファイアウォールポリシーは、10000以上サポートできること
- ・ NAT機能を有すること
- ・ WebUI上でコマンドラインインターフェースを利用可能なこと
- ・ 過去の設定を自動保存し、GUI上で設定を比較する機能を持つこと
- ・ 複数の異なるバージョンのOSを保存できること
- ・ システム設定のバックアップは、暗号化とパスワードを設定してエクスポート可能であること
- ・ WindowsとMac OSのSSL-VPNとIPSec-VPNのクライアントソフトウェアを無償で提供できること
- ・ 二要素認証用トークン(ハードウェア/ソフトウェア)を20ライセンス、調達すること。または既存のライセンスを流用すること。

(8) 搬入・据付・配線・調整・回収の要件

- ✓ 導入システムの全ての機器について、下記の作業を行うこと。搬入にあたっては乙が立会い、正しく搬入されていることの確認を行うこと。
 - 設置場所への搬入
 - 運搬用の梱包材からの開封
 - 梱包材の撤去
- ✓ 本業務の実施にあたり、業務全体の管理について、工程表や作業体制等を明記した作業実施計画書を契約締結後 10 日以内（休日（行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条第1項各号に掲げる日をいう。以下同じ。）を除く。）に提出し、甲の承諾を得ること。工程や作業体制に変更が生じた場合は、甲と協議のうえ、実施することとし、新規作業実施計画書をその都度提出すること。
- ✓ 乙は、甲に引渡しを完了するまでの間、機器の輸送、搬入、保管等に際し生じた事故について、その責を負うものとする。
- ✓ 総合試験実施前までに、試験の実施スケジュール、実施内容、他関連システムの動作確認の手順及びスケジュール等、試験の実施計画書を作成し、甲の承諾を得ること。
- ✓ ネットワークに接続する機器等の動作確認を支援すること。
- ✓ 導入する機器には、導入年月、リース期間、所属名、ハードウェア管理番号等の内容を記載したラベル、また保守を行う連絡先を記載したラベルを貼り付けるものとする（詳細については別途指示）。また、乙は上記のハードウェア管理番号等を掲載した一覧ファイルを電磁的記録媒体で甲に提供すること。
- ✓ 本学の求めに応じて乙は進捗状況の報告を行うこと。
- ✓ 導入されるハードウェア及びソフトウェア製品の運用を担当する甲の職員に対し、必要な教育訓練を導入時に実施すること。なお、対象職員は5名程度を想定している。
- ✓ 機器及びソフトウェアの日本語または英語の電子マニュアルあるいは紙マニュアルを一部提供すること。
- ✓ 契約満了に伴う機器の返還については、乙が機器の設置場所に出向いて回収すること。回収日程等に

については、別途甲の指示に従うこと。また、機器の回収後は、機器内の設定情報を消去し、報告書を提出すること。

(9) 運用・保守の要件

- ✓ 乙が納品した機器についての通常運用（機器の監視や設定変更、セキュリティパッチの適用等）や障害・問い合わせの一次対応は甲が別途契約するヘルプデスク事業者が行うこととする。
- ✓ 乙は上記ヘルプデスク事業者に対して必要な教養を実施するとともに、円滑な業務遂行を支援すること。
- ✓ 乙は、納入した全ての機器を常に良好な状態に保つため、機器に精通した保守要員により常時保守できる体制をとるとともに、納入した機器の稼働環境を確保するため、保守要員を甲の要請後概ね3時間以内には現地に到着できる保守体制を確保すること。
- ✓ 甲の機器等の障害通知は、原則として甲の事務局開庁日の午前8時30分から午後5時15分とするが、緊急性や甲の業務への影響等を考慮した上で、甲及び乙の両者において必要と認めた場合は、上記時間外においても対応することができることとする。
- ✓ 乙は、機器を完全に使用できるように保守の責任を負うものとし、機器の故障に対し修理を行うこと。また、故障によって甲の業務に支障を生ずるおそれのある場合は、他の同等の機器を甲に対して無償で使用できるよう措置するものとする。（消耗品は除く）
 - ※ 故障には機器が火災、盗難、破裂・爆発、破損（過失による落下や飲食物等の液体をこぼしたことに起因する破損等を含む。）、落雷、台風・豪雨等による洪水により使用不能となった場合は除く。

4. その他

- ✓ 業務遂行上知り得た甲の機密事項について、契約期間中または契約終了後を問わず第三者に漏洩しないこと。
- ✓ 個人情報の取扱いについては、別記「個人情報の取扱いに関する特記事項」を遵守すること。
- ✓ 業務に支障をきたさないよう、履行期間開始前に甲の協力のもとに現受託業者から業務引継を完了させておくこと。また、契約終了時に次期受託業者から引継ぎの依頼があった場合は、適切に対応すること。
- ✓ 機器については、リース満了後、全部又は一部について再リースを行う可能性がある。
- ✓ 上記の仕様に疑義がある場合は、質問書の提出期限である令和7年7月15日午後5時までに、宮崎県立看護大学総務経理担当に電子メール（info@mpu.ac.jp）で問い合わせること。

以上